

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本(ササユリ)		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	平成28年12月10日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvCd=2191500061-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. アクティビティを重視した取り組み。 ・入居者に生きいきと生活して頂けるよう様々な活動を提案。 2. 入居者を一人の人として尊重した介護の実践。 ・思いやりや丁寧な対応。 3. 地域の人や家族が気楽に立ち寄れる施設運営。 ・挨拶や丁寧な対応、地域への参加から開始。 4. 職員のレベルアップのための取組。 ・定期的な学習会やミーティングの実施。スタッフ同志のコミュニケーションの活性化。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、利用者の普通の暮らしの継続を支援するため、まずは利用者のこれまでの生活歴、性格、嗜好、意向、出来ること・出来ないこと等を細かく分析し、利用者個々の適切な支援について職員に留まらず、必要な場合は家族も協働して支える関係を築くよう努めている。</p> <p>利用者の入院中は家族の支えが何より大切とし、ホームの専門的見地に基づき入院中の家族の関わりについても助言を行い、側面から支援している。入院中の家族の関わりが利用者の良い影響を与え、退院後、孫の結婚式に利用者は家族と共に参列することができた。今では毎日のように家族の訪問を受け、利用者の介護に家族も関って協力する関係を築いている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①アクティビティを重視し、生き生きと生活が出来る事を理念としている。 ②年間、月、日単位で活動予定を作成し実践している。	法人理念を毎朝唱和しているが、さらに理念を基にしたホーム独自の理念を策定している。利用者の普通の暮らしを継続すべく、職員会議やホーム内の勉強会に理念を取り上げ、実践の反映に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①地域の清掃や防災訓練等に参加し存在をアピールしている。 ②運営推進会議に、地区区長、民生委員の参加をお願いしている。 ③地元小学校との交流を実施している。	地域は栗の名産地であり、地域行事の栗の菓子まつりに利用者、職員が参加し、知人、友人と出会い交流している。地域の清掃、防災訓練、高齢者大学等で積極的に交流し、利用者の地域の関りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①地域の活動に参加し、当施設の内容や取組、相談事の受付などを説明している。 ②29年度より、地域貢献として「共用型デイ」を開設予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2か月に1度、欠かさず実施している。 ②入居者様の重度化に対する取組も開始した。 ③欠席者には資料を配布している。 ④アンケート結果、ヒヤリハットの改善状況も報告している。	年6回の運営推進会議には複数の家族、地域、行政が参加している。会議に、勉強会、地域のボランティアの演奏見学も取り入れ、見える形にして参加者の意見を交換し、実践に反映するよう工夫している。	主役である利用者の会議参加について一考願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①管理者が自治体を訪問、情報交換を行っている。 ②中津川市のGH部会の活動を通して、担当者との交流を図っている。 ③29年度から「介護認定審査会」の委員を務める。	管理者は行政主導のグループホーム部会に関わり、部会の研修会講師を務めている。他の参加者との情報交換の機会を得て、ホームの運営に活かしている。職員の応援協力で、認知症カフェの開催を計画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束に対する社内マニュアルを利用して定期的に勉強会を実施している。 ②特にグレーな部分(気付かない・良かれと思ってやった事)について、毎月の勉強会でテーマをあげ検討している。	マニュアルを整備し、定期的に勉強会を実施しており、職員は拘束をしない介護に努める意識は高い。玄関の施錠はなく、更に言葉かけや職員の仕草に不適切な点がないかまで、注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①社内の虐待防止マニュアルを利用し定期的に勉強会を実施している。 ②身体拘束と同様。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①基本的な考え方や知識を、勉強会や日常の業務を通して理解し実践できるようにしている。 ②入居者様の内1名様が「成年後見人制度」を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約や解約時には、管理者が重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけ説明し、理解を頂いている。 ②特に、疑問や不信感などを持たれる事がないよう親切、丁寧をモットーとして説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①顧客満足度調査を実施し、意見、要望を把握し、改善内容を報告している。 ②面会時に出来る限り家族と対話し、状況説明やヒヤリング、入居者の要望を伝え、実現できるよう努めている。	家族の訪問時に利用者の様子を伝え、併せて電話での報告を行い、意見を収集して実践に反映するよう努めている。家族から利用者に適した衣類選定の相談を受け、親身に助言して手配している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①毎月開催される業務ミーティング時において、自由な意見交換を実施している。 ③年に2回、管理者がスタッフ面談を実施している。	月1回職員会議を開催し、利用者個別の支援方法、接遇等を討議している。若手職員から行事の計画担当を選任し、計画案を基に意見を交換している。年2回管理者と職員とが面談し、個別に意見を表している。	積極的に意見を表すことの難しい職員もいる。全ての職員が、積極的に意見を表すことのできる環境を築くよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①毎月の職場訪問や会議への参加を実施。 ②勤怠を管理指導する中、時間外労働の把握をし法令遵守のみではなく、職員の健康面にも気をつけながら職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①新入社員は、1年間OJT研修を実施している。 ②今年度は「実務者研修」を7名が受講し6名が介護福祉士に挑戦する。ケアマネ試験も1名が受験、介護福祉士に1名が合格する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①中津川市グループホーム部会に参加し情報を共有し、グループホーム部会主催の研修会にスタッフも参加している ②グループ企業内の他事業所とのネットワークづくりは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①可能な限り入居前に施設の見学をして頂き、納得してから入居して頂くようにしている。 ②インテーク時等に本人様や家族様から情報収集を行いアセスメントシートに入力しプラン等に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①28年度は入退去が発生していないが、家族様の対応窓口担当を定め、きめの細かい対応を心がけている。 ②待つのではなく、こちらから報告・連絡・相談を積極的に実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①入居希望者に対しては、見学会を通してGHの使命を説明し、他の施設の紹介も行っている。 ②医療面は提携医と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①施設は入居者の生活の場であり、様々なアクティビティを通して、生活を実感出来るように努めている。 ②入居者様一人一人の支え方をケアプランに反映させるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①家族と一緒に支援していく立場である事を伝えて行くと共に、様々な機会を通して実践している。 ②入居者様の重度化に対応するための心の準備や体制作り、家族様の希望の聞き取りを開始した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①面会の少ない家族や、入居者の要望を連絡し、面会や一時帰宅の相談を行っている。 ②毎晩、18時30分過ぎに面会に来る方にも対応している。	複数の利用者が馴染みの美容院に通っている。歌の好きな利用者は、地域のカラオケ店の店主や仲間の送迎を受けて歌を楽しんでいる。ウォーキング仲間の訪問を受け、ホーム内の交流を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①一人ひとりの性格や相性、活動内容などを判断しながら席を考え、臨機応変に対応している。 ②一人一人に役割を持って頂き、互いに助け合ったり分け合ったりして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①入院による退去の場合、併設している居宅介護のケアマネと協力して対応している。 ②退去された方の家族様から1年後に「お世話になりました。」と他界された連絡が入った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①本人様は元より、スタッフや家族様からの情報を収集するよう努めている。 ②生活の中で、ふと洩らされた言葉などを記録に残し共有するようにしている。 ③心の底にあるものをプランに反映するよう心掛けている。	管理者、介護支援専門員は、利用者の生活歴、嗜好、性格等の把握に努め、毎年記録を更新して職員間で共有している。職員は利用者を理解の上、会話や仕草から思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①初期情報の内容だけでは生活歴を全て把握する事は難しい。又、本人様の記憶も薄れていく中、現在と過去の調和を模索しながら対応するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①介護記録や業務日誌を作成し、情報収集と共有を行っている。 ②毎朝の申し送りにおいて、体調や心身状態の確認を行っている。 ③「いつも」と違う点に注意するよう指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①プランは出来るだけ「具体的」に作成するよう心がけている。 ②毎月ケアカンファレンスを行い、介護方針を確認している。	半年を基本に介護計画のモニタリング(実施検証)を行い、計画の見直しに活かしている。家族の意見を踏まえ、職員は把握した利用者の思いや意向を持ち寄り、「その人らしい」介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日常生活や排泄、水分、バイタル等の記録は介護日誌に記入している。 ②伝達事項は業務日誌に記入して申し送りを実施。 ③各記録等は出勤時に確認し捺印するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①今年度から「医療連携」を開始した。訪問マッサージも導入している。 ②来年度から「共用型デイ」を開始する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①地域の様々な活動に参加させて頂き、情報収集や当ホームの存在をアピールしている。 ②地元消防署の協力を得て避難訓練を実施すると共に、地区の集会等で、災害発生時の協力をお願いなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①かかりつけ医は家族の自由意思としている。 ②提携医には2週間に一度の往診をお願いしている。 ③年1回は血液検査を実施するようにしている。	かかりつけ医は利用者、家族の希望医としている。ホームの協力医、訪問看護師は定期的にホームを訪問し、利用者の健康管理を行い、24時間の体制を敷いて利用者、家族の安全、安心を確保している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①今年度から「医療連携」を開始し活用している。(週1回訪問・24時間対応)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には介護サマリーで情報提供を行っている ②入院した場合は家族の要望や病院関係者への情報提供、退院に向けた協議を実施している。 ③入院中は毎日面会を実施した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①今年度から、重度化に伴う取組についての準備や説明を開始した。 ②個々の家族様の要望の把握が急がれるので順次実施している。 ③今後の課題として、重度化や終末期に対応出来るようスキルアップに取り組みたい。	入居時に、看取りの指針を家族に説明して理解を得ている。利用者の重度化から、ホームの暮らしが適当でないと予見した場合には、早期に医療関係者の助言を受け、利用者にとっての適切な次の棲家を家族に提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①地元消防隊の協力を得て、救急処置訓練を実施、勉強会で緊急時の連絡方法、処置について指導。 ③日常の状態の把握や薬の作用等についても医療機関と連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①避難訓練を年2回実施している。 ②防災セット、避難用グッズ、非常食を保管している。 ③地域の避難場所の確認を実施した。地域への協力もお願いしている。	消防署の立会いの下、年2回の訓練を実施している。訓練は通報、消火、避難、煙体験、時には消防署講師の勉強会の機会を設けて有事に備えている。地域の防災訓練に参加し、相互に協力するよう呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①勉強会や毎日の朝礼などを通して「接遇マナー」の周知を図っている。 ②丁寧な言葉づかいや説明、居室への入室許可の確認、上から目線や命令口調にならぬ事などを特に注意している。	接遇の勉強会を行い、職員は優しく気さくに利用者に接している。利用者への支援は、その都度了解を取り、意向に沿うよう努めている。異性の苦手な利用者は同性介助とし、入浴はタオルを掛けて視線に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①全ての行動に対し「～して下さい」のように命令にならぬよう「～されますか?」「～して頂いて宜しいですか?」と自己決定が出来るように配慮している。 ②希望のある方は事務室に來られ、管理者が要望をお聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①GHIは「ゆっくり・一緒に・楽しむ」を基本とするよう指導している。 ②職員には、その日の業務が優先ではなく、入居者の意向を優先させるよう指導している。 ③自分から言えない方に対しては、こちらから提案して活動などに参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①ヒゲ剃りや整髪、洗顔等はやれる方は自分でやって頂き、やれない方はお手伝いしている。 ②理美容は毎月、外部から訪問してもらっている。 ③行き付けの美容院へ通う方も数名居る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①生協の注文シートを一緒に見て注文したり、新聞折り込みなどで食べたい物を選ぶなどしている。 ②季節を感じられるような料理やお菓子などを提案して実施している。 ③回転寿司などに個別外出している。	献立には利用者の嗜好やリクエストを取り入れ、冷蔵庫の食材と相談して利用者と共に作る家庭料理である。飲み込みの苦手な利用者には、食べやすい市販の「なめらか食」を取り入れ、安心を確保している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①日々の食事や水分量は介護記録に記して確認している。特に水分量は個別記録に目安の量を明示し毎日確認している。 ②月初に体重測定を行いグラフにして確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、声掛けを行い全ての方が歯磨きを実施。 ②必要な方は説明や介助を実施している。 ③夜間、義歯の薬品洗浄や預かってお湯に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①現在、オムツ使用は0。全員トイレにて排泄をしている。 ②介助の必要な方は定期的にトイレ誘導を実施。	職員会議に利用者個別の排泄支援を取り上げ、支援を統一している。職員は「紙オムツゼロ」を合言葉に利用者個々に合わせた声かけ・誘導を行い、失敗のないトイレでの排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①便秘の把握のため、毎朝-2以上の方を申し送り時に報告している。 ②医師と相談の上、-1か-2でセンノシドを服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①基本的には3日に一度のペースで入浴して頂いている。 ②お湯は一人毎に入れ替え、気持ちよく入浴できるよう配慮している。 ③同姓介助は実現していない。	週2回入浴を基本に、湯は利用者ごとに入れ替え、希望の温度、入浴時間に柔軟に対応している。衛生的かつ楽しい入浴となるよう支援し、入浴の苦手な場合は無理強いせず、利用者の理解を得て支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①昼夜逆転にならぬよう、日中はなるべくフロアで過ごして頂いている。 ②起床や就寝時間も自由にして頂いており、入居者のペースを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①誤薬のないよう、セット時、服薬時、服薬後の三重チェックを実施。 ②薬は一包装し、誤薬防止や服薬のし易さに配慮している。 ③薬の内容は薬剤師と相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①年間活動計画を作成し、毎月具体案を検討して実施している。 ②運動会、スイカ割り、花火、ハロウィン等が盛り上がった。 ③少人数での外出も色々な場所に行けた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	①スーパーでの買い物、回転寿司、お菓子祭り、10日市、高齢者大学等へ個別外出をしている。 ②公園や花見は、施設行事として毎年行っている。 ③日常の散歩は、天候をみながら適時声掛けをしながら行っている。	利用者の介護度を考慮し、個別と全体外出とを組み合わせ支援している。ホーム周辺の散歩、ホーム内の菜園の世話、地域の小学校の運動会観戦、公民館の高齢者大学への参加、イチゴ狩り、弁当付きの公園外出等、外出は多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お小遣い金として1万円を預かっており、外出時の買い物等で好きな物を購入している。 ②物盗られ妄想や紛失に発展してしまう方については、家族や本人に説明納得して頂き、預かり証などを発行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①自宅に電話してほしいと言われる方については、事前に家族と打ち合わせや確認をして対応している。 ②写真入りの年賀状や暑中見舞いを作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部においては、あまり幼稚園的な飾り付けをしないで、大人の雰囲気を出すように配慮している。 ②今年から、毎月の行事予定を掲示するようにした。 ③行事の写真パネルにして見て楽しんで頂くようにしている。	リビングにさりげなく切り絵作品や生花の鉢を配置し、掃除が行き届いて尿臭等の嫌な臭いはなく、床暖房を設け快適な環境である。利用者は相性を考慮したテーブルの席に座り、職員を交えて穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共用部において、中間的な場所として廊下に椅子を配置した。 ②家族等の来訪時には居室でゆっくりとお話をして頂くよう、机や椅子を提供している。 ③入居者同士で会話ができるよう、席替えをした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①日中はフロアで過ごされる事が多く、居室はどちらかと言うと休む(寝る)ための場所となっている。 ②居室担当を決め、衣類の整頓などをお手伝いさせて頂いている。	希望の家具、趣味の歌のラジカセ、テレビ、家族の写真、遺影、鏡、化粧道具、書籍等を自由に持ち込んでいる。時折、気持ちの落ち込む利用者のため、職員が壁に華やかな飾り付けをして優しく支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①建物内は全てユニバーサルデザインとなっている。 ②トイレの扉にはその旨表示がされて場所を認識されている。大半の方が自分の使用するトイレを決めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本(モクレン)		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	平成28年12月10日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&JkyosyoCd=2191500061-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年 1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. アクティビティを重視した取り組み。 ・入居者に生きいきと生活して頂けるよう様々な活動を提案。 2. 入居者を一人の人として尊重した介護の実践。 ・思いやりや丁寧な対応。 3. 地域の人や家族が気楽に立ち寄れる施設運営。 ・挨拶や丁寧な対応、地域への参加から開始。 4. 職員のレベルアップのための取組。 ・定期的な学習会やミーティングの実施。スタッフ同志のコミュニケーションの活性化。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①アクティビティを重視し、生き活きと生活が出来る事を理念としている。 ②年間、月、日単位で活動予定を作成し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①地域の清掃や防災訓練等に参加し存在をアピールしている。 ②運営推進会議に、地区区長、民生委員の参加をお願いしている。 ③地元小学校との交流を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①地域の活動に参加し、当施設の内容や取組、相談事の受付などを説明している。 ②29年度より、地域貢献として「共用型デイ」を開設予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2か月に1度、欠かさず実施している。 ②入居者様の重度化に対する取組も開始した。 ③欠席者には資料を配布している。 ④アンケート結果、ヒヤリハットの改善状況も報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①管理者が自治体を訪問、情報交換を行っている。 ②中津川市のGH部会の活動を通して、担当者と交流を図っている。 ③29年度から「介護認定審査会」の委員を務める。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束に対する社内マニュアルを利用して定期的に勉強会を実施している。 ②特にグレーな部分(気付かない・良かれと思ってやった事)について、毎月の勉強会でテーマをあげ検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①社内の虐待防止マニュアルを利用し定期的に勉強会を実施している。 ②身体拘束と同様。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①基本的な考え方や知識を、勉強会や日常の業務を通して理解し実践できるようにしている。 ②入居者様の内1名様が「成年後見人制度」を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約や解約時には、管理者が重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけ説明し、理解を頂いている。 ②特に、疑問や不信感などを持たれる事がないよう親切、丁寧をモットーとして説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①顧客満足度調査を実施し、意見、要望を把握し、改善内容を報告している。 ②面会時に出来る限り家族と対話し、状況説明やヒヤリング、入居者の要望を伝え、実現できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①毎月開催される業務ミーティング時において、自由な意見交換を実施している。 ③年に2回、管理者がスタッフ面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①毎月の職場訪問や会議への参加を実施。 ②勤怠を管理指導する中、時間外労働の把握をし法令遵守のみではなく、職員の健康面にも気をつけながら職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①新入社員は、1年間OJT研修を実施している。 ②今年度は「実務者研修」を7名が受講し6名が介護福祉士に挑戦する。ケアマネ試験も1名が受験、介護福祉士に1名が合格する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①中津川市グループホーム部会に参加し情報を共有し、グループホーム部会主催の研修会にスタッフも参加している ②グループ企業内の他事業所とのネットワークづくりは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①可能な限り入居前に施設の見学をして頂き、納得してから入居して頂くようにしている。 ②インテーク時等に本人様や家族様から情報収集を行いアセスメントシートに入力しプラン等に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①28年度は入退去が発生していないが、家族様の対応窓口担当を定め、きめの細かい対応を心がけている。 ②待つのではなく、こちらから報告・連絡・相談を積極的に実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①入居希望者に対しては、見学会を通してGHの使命を説明し、他の施設の紹介も行っている。 ②医療面は提携医と相談しながら対処している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①施設は入居者の生活の場であり、様々なアクティビティを通して、生活を実感出来るように努めている。 ②入居者様一人一人の支え方をケアプランに反映させるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①家族と一緒に支援していく立場である事を伝えて行くと共に、様々な機会を通して実践している。 ②入居者様の重度化に対応するための心の準備や体制作り、家族様の希望の聞き取りを開始した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①面会の少ない家族や、入居者の要望を連絡し、面会や一時帰宅の相談を行っている。 ②毎晩、18時30分過ぎに面会に来る方にも対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①一人ひとりの性格や相性、活動内容などを判断しながら席を考え、臨機応変に対応している。 ②一人一人に役割を持って頂き、互いに助け合ったり分け合ったりして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①入院による退去の場合、併設している居宅介護のケアマネと協力して対応している。 ②退去された方の家族様から1年後に「お世話になりました。」と他界された連絡が入った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①本人様は元より、スタッフや家族様からの情報を収集するよう努めている。 ②生活の中で、ふと洩らされた言葉などを記録に残し共有するようにしている。 ③心の底にあるものをプランに反映するよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①初期情報の内容だけでは生活歴を全て把握する事は難しい。又、本人様の記憶も薄れていく中、現在と過去の調和を模索しながら対応するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①介護記録や業務日誌を作成し、情報収集と共有を行っている。 ②毎朝の申し送りにおいて、体調や心身状態の確認を行っている。 ③「いつも」と違う点に注意するよう指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①プランは出来るだけ「具体的」に作成するよう心がけている。 ②毎月ケアカンファレンスを行い、介護方針を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日常生活や排泄、水分、バイタル等の記録は介護日誌に記入している。 ②伝達事項は業務日誌に記入して申し送りを実施。 ③各記録等は出勤時に確認し捺印するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①今年度から「医療連携」を開始した。訪問マッサージも導入している。 ②来年度から「共用型ディ」を開始する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①地域の様々な活動に参加させて頂き、情報収集や当ホームの存在をアピールしている。 ②地元消防署の協力を得て避難訓練を実施すると共に、地区の集会等で、災害発生時の協力をお願いなどもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①かかりつけ医は家族の自由意思としている。 ②提携医には2週間に一度の往診をお願いしている。 ③年1回は血液検査を実施するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①今年度から「医療連携」を開始し活用している。(週1回訪問・24時間対応)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には介護サマリーで情報提供を行っている ②入院した場合は家族の要望や病院関係者への情報提供、退院に向けた協議を実施している。 ③入院中は毎日面会を実施した。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①今年度から、重度化に伴う取組についての準備や説明を開始した。 ②個々の家族様の要望の把握が急がれるので順次実施している。 ③今後の課題として、重度化や終末期に対応出来るようスキルアップに取り組みたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①地元消防隊の協力を得て、救急処置訓練を実施、勉強会で緊急時の連絡方法、処置について指導。 ③日常の状態の把握や薬の作用等についても医療機関と連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①避難訓練を年2回実施している。 ②防災セット、避難用グッズ、非常食を保管している。 ③地域の避難場所の確認を実施した。地域への協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①勉強会や毎日の朝礼などを通して「接遇マナー」の周知を図っている。 ②丁寧な言葉づかいや説明、居室への入室許可の確認、上から目線や命令口調にならぬ事などを特に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①全ての行動に対し「～して下さい」のように命令にならぬよう「～されますか?」「～して頂いて宜しいですか?」と自己決定が出来るように配慮している。 ②希望のある方は事務室に來られ、管理者が要望をお聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①GHIは「ゆっくり・一緒に・楽しむ」を基本とするよう指導している。 ②職員には、その日の業務が優先ではなく、入居者の意向を優先させるよう指導している。 ③自分から言えない方に対しては、こちらから提案して活動などに参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①ヒゲ剃りや整髪、洗顔等はやれる方は自分でやって頂き、やれない方はお手伝いしている。 ②理美容は毎月、外部から訪問してもらっている。 ③行き付けの美容院へ通う方も数名居る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①生協の注文シートを一緒に見て注文したり、新聞折り込みなどで食べたい物を選ぶなどしている。 ②季節を感じられるような料理やお菓子などを提案して実施している。 ③回転寿司などに個別外出している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①日々の食事や水分量は介護記録に記して確認している。特に水分量は個別記録に目安の量を明示し毎日確認している。 ②月初に体重測定を行いグラフにして確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、声掛けを行い全ての方が歯磨きを実施。 ②必要な方は説明や介助を実施している。 ③夜間、義歯の薬品洗浄や預かってお湯に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①現在、オムツ使用は0。全員トイレにて排泄をしている。 ②介助の必要な方は定期的にトイレ誘導を実施。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①便秘の把握のため、毎朝-2以上の方を申し送り時に報告している。 ②医師と相談の上、-1か-2でセンノシドを服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①基本的には3日に一度のペースで入浴して頂いている。 ②お湯は一人毎に入れ替え、気持ちよく入って頂けるよう配慮している。 ③同姓介助は実現していない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①昼夜逆転にならぬよう、日中はなるべくフロアで過ごして頂いている。 ②起床や就寝時間も自由にして頂いており、入居者のペースを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①誤薬のないよう、セット時、服薬時、服薬後の三重チェックを実施。 ②薬は一包化し、誤薬防止や服薬のし易さに配慮している。 ③薬の内容は薬剤師と相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①年間活動計画を作成し、毎月具体案を検討して実施している。 ②運動会、スイカ割り、花火、ハロウィン等が盛り上がった。 ③少人数での外出も色々な場所に行けた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①スーパーでの買い物、回転寿司、お菓子祭り、10日市、高齢者大学等へ個別外出をしている。 ②公園や花見は、施設行事として毎年行っている。 ③日常の散歩は、天候をみながら適時声掛けをしながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お小遣い金として1万円を預かっており、外出時の買い物等で好きな物を購入している。 ②物盗られ妄想や紛失に発展してしまう方については、家族や本人に説明納得して頂き、預かり証などを発行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①自宅に電話してほしいと言われる方については、事前に家族と打ち合わせや確認をして対応している。 ②写真入りの年賀状や暑中見舞いを作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部においては、あまり幼稚園的な飾り付けをしないで、大人の雰囲気を出すように配慮している。 ②今年から、毎月の行事予定を掲示するようにした。 ③行事の写真パネルにして見て楽しんで頂くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共用部において、中間的な場所として廊下に椅子を配置した。 ②家族等の来訪時には居室でゆっくりとお話をして頂くよう、机や椅子を提供している。 ③入居者同士で会話ができるよう、席替えをした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①日中はフロアで過ごされる事が多く、居室はどちらかと言うと休む(寝る)ための場所となっている。 ②居室担当を決め、衣類の整頓などをお手伝いさせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①建物内は全てユニバーサルデザインとなっている。 ②トイレの扉にはその旨表示がされて場所を認識されている。大半の方が自分の使用するトイレを決めている。		